

第6次知多市総合計画審議会〔第2回〕

【日 時】平成30年8月27日（月） 午後3時～5時

【場 所】知多市役所1階多目的会議室

【出席者】

会 長 吉村輝彦 日本福祉大学 国際福祉開発学部 学部長・教授
副会長 入江容子 愛知大学 法学部 教授
生田祐江 市民ワークショップ「未来にツナグ会議」参加者
市野 恵 特定非営利活動法人 地域福祉サポートちた 代表理事
片山麻有 愛知県男女共同参画人材育成セミナー修了者
河村康英 社会福祉法人 知多市社会福祉協議会 副統括監兼総括主任
久野美奈子 特定非営利活動法人 起業支援ネット 代表理事
近藤通哉 株式会社 日本政策金融公庫 熱田支店長
榊原秀敏 あいち知多農業協同組合 営農部 知多営農センター長
高山博好 NPO法人びすた〜り 代表 環境カウンセラー
竹内栄道 知多市商工会 監事
竹内徳得 知多市観光協会 副会長
竹内 誠 知多市コミュニティ連絡協議会 会長
富田敬子 市民ワークショップ「未来にツナグ会議」参加者
長倉剛士 日本労働組合総連合会 愛知県連合会 知多地域協議会 代表
松本幸正 名城大学 理工学部 教授
水内智英 名古屋芸術大学 芸術学部 准教授 国際交流センター長
峯神亜由美 知多メディアスネットワーク株式会社
営業部集合・法人グループ グループリーダー
吉川佳代 知多市社会教育委員
(事務局)

【欠席者】野尻紀恵 日本福祉大学 社会福祉学部 准教授

【傍聴者】7名

【議事次第】

- 1 会長あいさつ
- 2 議題
 - (1) 第6次総合計画の策定フローについて
 - (2) 知多市民の特性や志向について
 - (3) 将来の知多市のあるべきポジション、方向性について
- 3 その他

【会議の概要】

1 会長あいさつ

[事務局]

事務局の企画情報課長、細川です。

会議開催に先立ちまして、お願いがございます。

前回と同様でございますが、会議の内容をホームページなどに掲載してまいりますので、記録のために写真撮影をさせていただきますので、ご了承ください。

また本日、傍聴席を設けております。傍聴の方もお見えです。よろしくお願いいたします。

本日の会議ですが、野尻委員から欠席のご連絡をいただいております。20名中19名の出席でございますので、定足数に達していることをご報告させていただきます。

それでは、会長、よろしくお願いいたします。

[吉村会長]

それでは、ただいまから、第2回知多市総合計画審議会を開催します。

委員の皆様には、本日ご出席いただき大変ありがとうございます。

本日の会議は、見て頂く通り2つのテーブルに分けました。前回の会議では1つのテーブルだったと思いますけれども、委員が20名の中で2時間という限られた時間しかなく、かつこういう雰囲気慣れて発言することがスムーズにできる人もいれば、なかなかしゃべりにくい人もいらっしゃるかなということもありましたので。現段階では、未来志向で考えていきたいということもありますので、皆さんできるだけざっくばらんに、色々な思いを共有できればよいと思ひまして、こういう形で配置したうえで議論を進めていきたいと思ひますので、よろしくお願いいたします。

先月、7月23日の中日新聞で、東洋経済新報社の住みよさランキングを見た人はいらっしゃいますでしょうか。多分、大府市が全国6位になったことよりも、知多市がまだ601位であることについて、色々な思いを持った方もいらっしゃるかと思います。これは見方のひとつとしてはそうなのかもしれないけれども、やはり知多市ならではの資源があります。前回もお話したとおり、市民活動やNPO活動は他の市よりもむしろ進んでいるところもあり、文化的な価値も含めて、知多市の良い所はいっぱいある中で、結果的にこういう側面になるところはあるにしろ、その誇り、大事な所をこれからの未来を考えていくうえで大事にしながらこれから取り組んでいきたいと改めて強く思ひました。そこでの課題もあつつも、それを共有しながら、未来志向の議論を是非進めていきたいと思ひますので、今日は短い時間ですけれどもよろしくお願いいたします。

まず、今回新たに委員として委嘱された方が3名いらっしゃいますので、事務局から紹介をして頂けたらと思ひます。よろしくお願いいたします。

[事務局]

それでは、ご紹介させていただきます。

お一人目は、コミュニティ連絡協議会会長として、寺島康夫さんの任期満了に伴ひまして6月から会長を務められております竹内誠委員です。

また、前回の審議会でもご説明しました通り、市民ワークショップ「未来にツナグ会議」の参加者の中からお二人の方に、審議会委員に加わっていただきました。

20年後のまちづくりの主役となる若い世代で、まちづくり活動にも積極的に携わっておられる、富田敬子さんと生田祐江さんを選任させていただいております。

お二人には、未来にツナグ会議での意見を審議会の方へも届けていただくとともに、市民目線でのご意見をいただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願います。

[吉村会長]

ありがとうございます。それでは、3名の委員さん、並びに前回ご欠席の松本幸正委員、久野美奈子委員には、簡単に自己紹介していただきたいと思っておりますので、参考資料5の名簿順に生田委員から願います。

[生田委員]

みなさんこんにちは。今回、第2回目より仲間入りさせていただきました、市民ワークショップ参加者の生田祐江と申します。市民ワークショップから、この中に入れさせていただくことになりましたが、普段は色々活動をしていまして、地域のためにということで、市民活動団体の「樂ちた樂祭実行委員会」というものもやっていて、知多市の魅力を発見して発信するという事業も行っておりますので、この中でも何か活かせることがあればと思います。どうぞよろしく願います。

[久野委員]

NPO法人「起業支援ネット」で代表を務めております、久野と申します。よろしく願います。普段は名古屋に事務所をおきまして、身の丈の起業や地域密着型のビジネスを起こす方々の応援をしているのですが、知多市民になって17年ほどというご縁もあって、今日お呼びいただいているのかなと考えております。どうぞよろしく願います。

[竹内（誠）委員]

私は今年から、コミュニティ連絡協議会の会長という役を仰せつかりまして、この席にお呼びいただいて参加しているわけですが、以前資料を色々いただきまして目を通しましたら、こういう考えはあまり持たなかったのですが、これは面白そうだなとわくわくした気持ちで今日は来ておりますので、よろしく願います。

[富田委員]

普段は、自分の家の事務の仕事を手伝いながら、本物の文化に触れながら子育てをしていこうという「知多市やまももおやこ劇場」の運営委員をしています。今日は、市民ワークショップからの参加となります。どうぞよろしく願います。

[松本委員]

専門は土木工学でございます。土木と言いますと、橋を造ったり、トンネルを掘ったり、道路を造った

りなのですが、私はどちらかというとソフト系で、都市工学、特に交通計画が専門です。従いまして、知多市のあいあいバスの計画のお手伝いなどもさせていただいております。そういう意味で今回お呼びいただいたのかなと思っております。今回の総計の立案するプロセスは、私も大変楽しみにしております。今回、すごく多様な皆さんがお集まりいただいて、未来志向の考え方をやっていくということで、楽しみにしております。よろしくお願いいたします。

[吉村会長]

ありがとうございます。第1回の審議会でも、皆さんが楽しみにしていますという声があるので、これを裏切らない様にどうするのか。私の責任ではなく、皆さんと共に分かち合いたいと思っております。よろしくお願いいたします。

2 議題

(1) 第6次総合計画の策定フローについて

[吉村会長]

本日の議題ですが、(1) 第6次総合計画の策定フローについて、事務局からの説明をいただければと思います。よろしくお願いいたします。

[事務局]

【配布資料の確認】

【「第6次総合計画の策定フロー」について説明】【資料1】

[吉村会長]

未来にツナグ会議の報告もありましたので、ここで「未来にツナグ会議」参加者として審議会に加わっていただいたお二人から、未来にツナグ会議の様子を少し伝えていただきたいと思っております。

[生田委員]

未来にツナグ会議には2回目から参加させていただき、グループワークでは、知多市の魅力や、これから未来に残していきたいことについてグループでの方向性を見つけて、発表しました。参加者は、下は学生さんから上は年配の方までの幅広い年齢層の中で様々な意見が出ました。知多市民歴も長い方も短い方もいらっしゃって、それぞれの目線からの意見を聞くことができとても充実した時間となりました。そこで出た意見は、資料(参考資料3)にまとめてあるとおりでありますが、とても良い意見がたくさん出ていました。皆さんが熱く知多市のことを思っているということがよくわかりました。

[富田委員]

私は第1回、第2回と参加し、第1回では10年後の理想の自分について考え、そのためには何が必要かを考えました。私の隣は高校生の男子で、斜め前には80代のおじいさんがいて、高校生は将来先生になりたい、80代のおじいさんは外国人の方と関わることを話していて、グループで自分の未

来について話し合い、未来のことを語るのがこんなにも楽しいことなんだと実感したワークショップでした。第2回は、生田さんもおっしゃっていたように皆さん熱く知多市のことを語っていたのですが、皆さん知多市のことが好きだなと感じる回でした。

(2) 知多市民の特性や志向について

[吉村会長]

続いて議題の(2) 知多市民の特性や志向について、事務局から説明をお願いします。

[事務局]

【「知多市民の特性や志向」について説明】【資料2】

[吉村会長]

アンケートの結果を出発点として、どのように未来につながっていきけるかについて議論していきたいと思います。

事務局からシビックプライドがあまり醸成されていないのでは、という話がありましたが、他方で、知多市は市民活動・地域活動がさかんということも事実です。こうした調査とのギャップがありますが、委員として関わっている方のリアルな体験をベースに議論していければと思います。

ここからは、テーブルごとにご議論いただき、各テーブルでのご意見は、後ほど共有したいと考えております。

【吉村会長のグループ発言骨子】

[吉村会長]

アンケート結果を受けて、みなさんが感じる未来などを言ってほしい。

[久野委員]

なるほどと思った。私は日中知多市におらず、知多市は生活の場となっており、定時制市民的な感じである。まちに活気がないのは名古屋へ仕事に行っているからだと言われると、そうだなと思ったりもした。もし市民アンケートをされたら「住みたい」に丸をつけたら。子育てもしやすく、そういう暮らしをするにはよかった。しかし未来志向と言われると、経験も大事にしつつ、自分ではない立場の人も意識しなければならない。

日中を知多市で過ごされている方はどのくらいみえるのか。

[竹内(徳)委員]

私も勤めていたので、日中は知多市にほとんどおらず、夜だけだった。現在は定年になり、地域で色々な活動をしている。

私も「やはりな」と感じた。岡田で街並保存会の会長をしているが、日中は歩いていても人が全くいない。街並みが観光の目玉ということで、市や観光協会もPRしているが、日中は住民も外から来た人

もほとんどいない。知ってもらうためのPRが足りない。

[久野委員]

旭南学区に住んでおり、新舞子の海岸には夏は外から人が来て賑やかで渋滞もする。活気はあるが、住民としては道が混む。活気はほしいが、穏やかな日常生活が脅かされるのは嫌だという矛盾した気持ちがある。本気でやるときは矛盾や葛藤を乗り越えなければならない。覚悟が必要である。本気でしたいことを見つけることが大事である。

[竹内(誠)委員]

先祖代々、佐布里に住んでいる。

梅の時期は賑やかになるが、観光だけで1ヶ月終わってしまう。梅ちぎりを小学校でやっているが、その後も梅が残っているので、昨年一般の方に梅ちぎり体験をしてもらうようにした。140～150人ほど集まった。小学校には一部の梅を残してもらい、今年は300人近く集まった。

佐布里も竹藪が増えたので、竹藪をなんとかしようという組織も昨年でき、今年は50名ほど集まった。竹藪を切り、春には小学生が来てタケノコを採ったりして、佐布里も少し賑やかになってきている。

[生田委員]

市民アンケートに回答した。生まれも育ちも知多市である。知多市が大好きなはずなのに、改めてアンケートに回答しようとするとうるせうがとまる。設問が膨大な量だったので、時間がかかった。市民インタビューもされたが、すぐ回答できない自分がいた。魅力を発信したいが、これというものが出てこない。決して悪くはないのに。

[吉村会長]

アンケートの設問のあり方と、実際に活動している感性が必ずしもあっていない。自分の活動をどう定義したらよいか悩むのだと思う。例えば「社会貢献活動をしている」という設問では、好きでやっていることに関しては、結果的には社会貢献しているかもしれないが謙虚になってしまうのだろう。このあたりは気になるところである。

[松本委員]

知多市は資源が多く、市民活動が非常に活発である。十数年前に私が関わり出したときから活発で、「大人の学校」も非常によい感じでやられている。徐々に資源を活かせる形になってきているので、楽しみである。定年退職後、時間に余裕のある方のライフスタイルが変化して、地元を目を向けることができるようになった。知多市は今後もっとそういう部分が出てくると思う。

一方、矛盾を感じているところもある。よいところは、自然に恵まれ、緑豊かでまちが落ち着いているところである。しかしここで満足せず、素敵なお店がないという。自然が豊かでよいのではないか。そこに満足を感じれば幸せになれる。方向性を決めたい。名古屋駅は近いので、そういうものは名古屋に任せて知多市らしいものを作ることが大事である。

[吉川委員]

行政の総合計画で市民がまちづくりに関心を持ち、行政と市民が連携・協働して作り上げた方向性が徐々に市民に根付いた結果だと思う。あらゆる場所でコミュニティ活動を高めていくことが知多市の特徴になる。

自然が豊かなのは素晴らしいことだが、問題は維持していけるかである。雑草刈りなどを維持していくのは大変である。そこへ力を注いでいく。買い物などは周辺都市に任せればよい。名古屋の人は20～30分で行ける知多市にこれほどの緑があるのは素晴らしいことだと言うので、もっとそこを伸ばす方向でよいのではないか。

[久野委員]

素敵なお店ができて、日中に人がいなければ、継続できるか問題である。生活を支えるインフラ的な商業活動のものと、好み・楽しみを満たすものとは別で考えた方がよい。生活インフラの面でいうと、交通の便はあまりよくなく、車がないと不便である。

[高山委員]

女性の活動が活発である。日常の買い物は市内のスーパーで済ませ、週末はイオンへ行く。それでバランスがとれている。イオンが知多市にできると迷惑なので、常滑市にあるのは知多市にとっては程よい距離でよいことである。お店がほしいというのは、女性活動家が集えるような洒落たレストランやカフェではないか。そういう場所が緑豊かなところがあれば活動も活発になるのではないか。

[松本委員]

女性が賑やかに活動し、洒落たランチが食べられるようなお店があってもよい。今はどこでランチをしているのか。

[高山委員]

半田市や常滑市には学舎カフェのようなものがあり、ランチしながらお稽古事もできる。知多市は行政などがそういったところ（わ〜くわくらボ、Ada-coda）を担っており、他市とは少し違う。

[河村委員]

アンケートについてはこんな感じかと思う。成熟度が高いと表現されているが、要は頭打ちということである。人口が増えればよいという短絡的なものではなく、知多市民の活動が活発だというのは、その魅力に対して市民が関わっていくというよさがある。温厚的な人が多いと思うので、魅力が共有できると知多市民は力を発揮する。

昼間人口が少ないのは、雇用の場が大きな問題である。緑豊かにする仕掛けとして仕事の切り出し的なもので市民活動も含め関わるチャンスを多様にすれば愛着精神や、知多市民が自分達で作っている誇りを再形成できるのではないか。

[竹内(徳)委員]

高齢化で、女性はグループで色々な活動をしたりするが、男性は家にいるかもしくは畑をしている。緑豊かという自然にはそういう使い方もある。うまくコーディネートしてやればもっと盛んになる。

[松本委員]

ちなみに名古屋市の市民農園は不足しており、倍率が高くて借りられないので、知多市は恵まれている。

[竹内(徳)委員]

農園などで利用すれば雑草もとれ、緑のコントロールができる。もっとそちらへ人を向けるような働きかけをするとよい。

【入江副会長のグループ発言骨子】

[入江副会長]

知多市民の特性でシビックプライドが形成されていないという結果がでた。

皆様のご経験を踏まえご意見を出していただきたい。

最初に、このような形で総合計画審議会に携わるのは初めての経験。小さな単位で議論を行うので、忌憚のないご意見をお願いしたい。

シビックプライドをどのように捉えているかご意見をお願いしたい。

[市野委員]

市民活動が盛んであることとシビックプライドがつながっていない。本当にシビックプライドが低いかどうかははっきりしていないのではないかと。

[富田委員]

前回のワークショップで、知多市の良いところを出した。自然が豊か、お裾分けがあるなどの意見があったが、買い物やおしゃれなお店など、プラスになる意見は出てこなかった。

シビックプライドが形成されていないという結果には私自身もギャップを感じている。ワークショップでは自然が豊か、お祭りなど守っていききたいものがあり、歴史、愛知用水など、すごく熱く語っていた。必ずしもアンケート結果とはつながっていない。

[片山委員]

私も知人と20年後の知多市の話しをした。街の景観はあまり変わっていないが、人のライフスタイルは変わっていくということを話した。

それぞれ選択肢が増えている中で、シビックプライドを持たなくても生活できる。昔はシビックプライドを持たなければ生活できなかったのではないかと。

[水内委員]

シビックプライドで感じたのは、お店が多い、利便性が高いという短期的な視点のものが多い。シビックプライドはそのような視点ではなく、長期的な視点である。

特に市民活動が盛ん、自然豊かというものをプライドに繋げていくことが重要ではないか。

[近藤委員]

統計をどのように捉えるかが問題である。直接的に愛着はわからないが、知多市での居住継続について、75%がそのまま居住して良いとの回答である。

それを考えると、デメリットはなく、本人が気づいていない誇り、愛着がある。

東海市で新しいものができる隣芝生が青く見えてしまうだけではないのか。

[峯神委員]

東海市と比べると、太田川駅前が新しくなるなど、なんとなくうらやましく感じる。しかし、知多市が悪いというわけではなく、大切にしていけるものがきちんとあるし、岡田の街並みなどに目を向けて伝えていけば、これまでと違った形で知多市の良さが伝わっていくのではないか。

[榊原委員]

ほかの地域に住んでいる人に自慢できることと、住んでいて良いなと思うことが両方あると良い。

軸としてペコロス、城などがあれば、知多市にはこれがあるというプライドにつながる。住んでいる人が住んでいる人なりに、すでにある地域資源を上手くPRできると良い。

[入江副会長]

目に見えてははっきりと魅力と言えるようなものをまちの価値として思っていると、それはなかなか数字として表れてこない。地元の人つながりや、自然の豊かさ、伝統文化、住みやすさなど、無意識的、無自覚的に日々感じているものの良さを引き出していくと、それが市民のプライドにつながっていくと思う。

[竹内(栄)委員]

これまで5年ぐらいしか知多市から離れて生活したことがない。プライドという言葉に違和感があり、知多市で自慢できることは何かという意識は持ったことがない。個人によって捉え方が異なる。

今回のアンケートの内容は、30年ほど前に青年会議所が行ったものとほぼ同じ。アンケート自体も引き出し方が上手くないと感じる。知多市の名所、名物ではなく、これからはコトではないか。

例えば、インターハイなどのフェンシングの会場として知多市が利用された。梅についても、青年会議所で仕掛け、今のような梅干しができるまで30年かかった。

シビックプライドは簡単に形成されるものでなく、行政、市民団体などがこれから取り組んでいくエネルギーというものがプライドにつながっていくのではないか。

これまで財政が良く、無駄なことができたが、もっと無駄なことをやっていった方が良かった。

[長倉委員]

私のように市外から転入してきた方は、東海市など近隣の市町と比較して知多市を選択した人が多い。

公園や学校が近いけれど、買い物場所がないので近隣の市町のスーパーへ行こう、などという考えで知多市で暮らすことを選択してきた。

市外から転入してきた方にとってのシビックプライドは、これまで長く知多市で暮らしてきた方と異なる。

[入江副会長]

シビックプライドという言葉がしっくりこないということかと思うが、知多市の暮らしやすさを感じているが、それがプライドという言葉に上手く結びついてこないのではないか。

潜在的に感じている暮らしやすさが魅力として問われた時に、上手く出てこないのではないか。

[片山委員]

そもそも、犯罪があるところに住みたくない。子どもから高齢者まで安心して暮らせるところで人は生活する。

[長倉委員]

昔から住めば都といわれる。知多市でも、半田市でも選択して生活している。東海市を見ると良いところがあるが、知多市も自然がある、治安が良い。それぞれの街に良いところがある。

[市野委員]

私が生まれ育ったところはお城もあり、歴史のある祭りもあり、シビックプライドが高く、帰りたいと今でも思っている。子どもたちは知多市で生まれ育って知多市が好きなので、今でもここで住み続けている。

知多市で生まれ育った方にとっては知多市が都であるし、近所の方や学校の仲間が嫌であれば、知多市から出たいと思う。

モノやお店があっても変わっていく。住みやすさの指標がずれているのではないか。

(3) 将来の知多市のあるべきポジション、方向性について

[吉村会長]

続いて議題の(3) 将来の知多市のあるべきポジション、方向性について、事務局から説明をお願いします。

[事務局]

【「社会潮流及び広域地域分析」について説明】【資料3】

[吉村会長]

先ほどの議題、アンケート調査結果からの意見交換と重なるところがありますので、引き続きテーブルごとに議論をしていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【吉村会長のグループ発言骨子】

[吉村会長]

リニアや広域はよくテーマになるが、突破口として松本委員から意見を頂きたい。

[松本委員]

リニアが来たときに重要なのは、名古屋駅までのアクセスである。アクセス時間をいかに早めるかが重要だが、知多市はそもそも20分で非常によいところである。20分で行けるにも関わらず、緑も豊かでさらには海もあり、非常に価値が高い。その強みを活かしながら10年後の姿を描くべきである。

もっと重要なのは、資料2「図表2 年齢5歳階級別・男女別人口」で10年後は変わる。ここから目を背けてはいけない。夢も描き、強みも活かしながらこれをどうするか考えなければならない。そこへ向けて交通や土地利用、老後の生活などを考える。財政力指数も厳しくなるが、市民活動が活発なのは強みになる。「社会潮流及び広域地域分析（広域から見た知多市のポジション）」とあるが、そこをしっかりと認識した上で絵を描かなければうまく描けない。

[久野委員]

市民活動が活発というところに知多市の20～30年の歴史がある。経済成長に支えられ、ご主人がしっかり稼いで家を支え、能力はあるが女性は仕事を辞めて専業主婦にならざるを得なかった時代に、女性活動家が生まれ市民活動を支えていた。大きな視点で予測すると、市民活動は仕事になりつつある。NPO法ができ、20年間で余暇・ボランティアという形から仕事になりつつある。

現役世代でボランティアができる余裕のある層は、今後日本全体の経済の縮小と共に、知多市に限らず縮小していくだろう。地域の支え合いが絵に書いた餅にならないようにする必要がある。

2030年時代も医療の世界では病床数、介護施設数が絶対的に不足すると言われている。安心して死ぬるまちでありたい。知多市は親戚や子どもの多い世帯が多いのであまり感じないが、全国的にはそういう潮流があるので、5～10年遅れて知多市にもやってくる。地域の支え合いだけではどうにもならない時代がくると知っておいた方がよい。

[吉村会長]

人口ピラミッドが想定外の変化をしたときに、どう立ち向かうのか、どう共通基盤を作っていくのか。

[河村委員]

福祉分野、生活支援体制整備いわゆる地域包括ケアであるが、買い物や移動問題など、元気なうちにやっていたものが高齢になるとできなくなることがある。それを地域住民で支えようという動きがあ

るにはある。行政も財源や人が萎んでいくと公的責務で賄える部分のパイが小さくなるが、市民が賄うことができるかというところという問題でもない。何をどうして何を残すかの判断を、総合計画に市民が継続的に関わりながら、いろいろな市民活動を成熟させていき、時にはあきらめていくという知多市流の風潮を作っていくことが大事である。その中で未来志向の楽しいことも辛いことも共有しながらやっていく。移動もいろいろな支援のあり方があるので、公共交通だけでない移動のあり方も1つのテーマとして話ができると思う。障がいを抱えた方の活用なども含めてどう再構築するか。人口が減っても稼働率をあげるといふ部分でカバーしていくこともあるが、福祉的支援が必要な方の絶対数は増えるので、高齢化率は高くなり、生産年齢人口が少ないということになると、それなりの生活スタイルで何を求めていくのかという議論は必要である。

[高山委員]

包括支援会議の際、うちはメンバー全員で出席した。引きこもりの精神障がい者である。彼らは発症した時期にもよるが、ずっと世話をされる側である。親が亡くなって自分の立ち位置に気づくのだが、早く自身も社会の一員であることに気付いてもらうことがうちのNPOの役割だと思っている。逆に健常者を世話する側になろうという意気込みで出席していた。高齢者が買い物に行けなくてもメモがあれば障がい者でもできるし、犬の散歩も代行できる。2025年の高齢者問題の部分で精神障がい者が補うことができる。今まで世話をされる側だった者が世話をする側になり、感謝されて生きがいが生じるのではないかとNPO化した。

専門の1つが里山の再生である。雑草の処理は障がい者で担ってもよいし、うちのやぎでも緑を維持することに参画できる。やぎが観光資源になったり、体験学習の資源にもなる。

山羊主総会というものも開催している。やぎを飼っている人の集会だが、やぎをいかに幸せに飼うかというものである。やぎは家畜保健所への登録が必要だが、知らない人もいるのでその普及も兼ねている。登録している人だけで25頭いるが、その2倍近くは知多半島にいると思う。

[竹内(徳)委員]

いろいろなアイデアはあるが、財政上はどうか。今までは高度成長だったので、給与も年々上がり、専業主婦でもよかったが、今は非正規で税金も払えない人が増え、市の財政はどこからお金をもってくるのか。企業も売上げが多くても固定資産税くらいしかない。行政はどうやっていくのか。何とかクリアする方法を考えながら市を活性化していかなければ成り立たない。観光協会としては、市外の人にお金をおとしてもらいたい。佐布里、岡田、新舞子でどのくらいの受け皿があるのか。店もないので、おちるところがない。観光だけではだめだというのが本音である。

[松本委員]

長久手市は、人口増加率がトップで平均年齢が一番若いまちである。イケア、イオン、住宅開発など何十年か前の知多市のようなものである。いずれお金がなくなるので、今のうちに市民協働で草刈り、行事など何でもやれるようにしようと市長が言っている。行政として存続するためには市民活動の力は欠かせない。知多市はまさにそれを20年前からやっており、そこが知多市の特徴なので乗り切れるのではないかと。緑は市民と一緒に草刈りして守っていけばよい。梅ももっと製品化してどんどん広げてい

く。市民主体の行政のあり方は変わってくる。

[久野委員]

市民だから頑張るといふより、自分が快適になるため、町内の誰かのためということだろう。シビックプライドも小さなことの集積だと思う。知多市の財政が厳しいので草刈りをといるのではなく、共有地をどう自分達で守っていくかと言われるとやれることはないかと思う。財政が厳しいからではなく、どういふストーリーにしていくかが大切である。NPOも行政の下請けと言われた20年の歴史があるが、自分達の願う未来は自分達で作るといふことではないか。小さなことの集積である。

[松本委員]

「自分達の願う未来は自分達で作る」は非常によい。

[竹内(誠)委員]

3年ほど前から佐布里会館という地区の施設でボランティアが集まり喫茶店をやっている。毎月第3日曜日に幅広い層の方が来られ、学校の作品も並べたりしている。毎月平均60人位の方が来られ、イベントもやっている。地元の静けさを自分達で賑やかにしようとやっている。

[生田委員]

資料1のアンケート結果で、50代は「健康づくり・疾病予防」が断トツに興味のあることとなっている。私は本業はカイロプラクターで健康作りに関わる仕事をしており、一般の知多市民と話すことは非常に多いが、活動しない人が多いと感じる。こういう会議に出席したり、市民活動をしている人は一握りである。普通に生活している人は無関心である。健康づくりに関してこれだけ興味があるといふが、実際に携わっている人は少なく、その差が大きい。こういうワークショップに参加するよう人は元気で活気があり、自分の意見を持っていて、知多市に愛着を持っている。一般市民も巻き込み、増えていくといろいろなことに変化が出てくると思う。

[河村委員]

活動に結びつかない多くの理由は、参加する時間がない、情報がどこにあるかわからない、ボランティア活動のための休暇がとりにくいという3つが上位である。ボランティア活動は人のためになる活動は根強いが、もう少し利己的で、持っている能力を発揮することが社会の活力に至るなら、そういう活動をするとうキャリア支援になる、余暇活動だが実は社会貢献しているなど、そういう風土を作り、緑豊かにしていく。日中は市外へ出て行き残っている方は少ないが、逆に知多市でも働いている人はいるので、そういう人たちが日中、土日に活動へ参加しやすい環境を作り、自分達の願う未来のようなものが共有されていて勤めている間も活動できるようにする。関心ある人だけが頑張るのではなく、やれるような風土を作れば少し違ふ。能力のある人はたくさんいる。オリンピック、市制50周年は起爆剤になる。そういうものを仕掛けて、知多市の大きなイベントに向けていろいろなチャンネルで活動できるようなものを誘発していくと、この2年くらいはおもしろいと思う。

[久野委員]

考えてみると、少年サッカーチームのコーチや野球監督もほぼボランティアで引き受けているお父さんも多い。それも立派な地域活動である。地域ベースとテーマベースがつながっていないが、つながらなくてもよい気もする。地域を支え、顔見知りの子どもの数も増える。ボランティアの概念を少し広げる。会社の活動の中でも交通安全の旗を振るなど、包括的にみるのは大事だと思った。

[吉川委員]

会社でもワークライフバランスの取り組みをしているし、知多市でも臨海部周辺の工場の人たちは、そういう形で関わってきているのではないか。

10年後を想定して、学校でも幼児期からボランティア体験が楽しいという気持ちを持たせる。それが楽しいことだと地域の人と関わりながら子供達が育つのは大切なことである。

[吉村会長]

自分も楽しく、地域もよくなっているという切り口が非常に大事である。子どもの頃におもしろいと思えるとよい。楽しいことを広げていくのは大事である。

[吉川委員]

日本の文化として、近所のことは近所でみるという助け合いは、知多市にずっと住んでいる人は地域毎のものであった。そういうものも大事にしつつ、新しい意味でのボランティア活動が両立するとよい。

[河村委員]

普段やっていることは何気ない活動だが、すごいことをやっているとお互いに褒め合って意味づけするとよい。

[吉村会長]

人口減少や高齢化で空き家になり、近所に住む人がいるかどうかもわからないという意味では、支えられる人を作らなければいけない。両隣はいないのが当たり前になるかもしれないので、10年後の形を考えることは大事である。

[松本委員]

両隣が空き家になるかもしれないことに対して、みなさんどう思っているのか。

[久野委員]

うちの地域は実感がある。

[竹内(誠)委員]

一人暮らしの方が多い。

[吉村会長]

それでも両隣に人がいればまだよい。

[松本委員]

それならまだよいが、いずれ空き家になっていく。

[吉川委員]

単純に考えても、87,000人の人口が何十年後には70,000人になる。これをどうするのか、くいとめるのか、何か利用していくのか。どう利用していくか知恵を出すのが我々の課題である。

[久野委員]

どうしたらよいかあまり積極的に考えたことがない。空き家は権利や相続のこともあり、個人の問題になりがちだがどう乗り越えるのか。私たちの世代は地域で支え合わなくても生きてこられた。支え合うことよさ、ありがたさを実感した経験が少ない世代が増えてきている。助けられ慣れていないので、地域に助けてもらったり、助け合うという体感がない世代が増えていくかもしれない。助ける人も増えてほしいが、助けられる体制は恥ずかしいことではなく、お互い様という感じの中に、住宅、空き家、耕作問題などすべて関わってくる気がする。

[竹内(誠)委員]

愛知県からみて、知多市はどういうまちの方向性でやっていくとよいと思うか。

[松本委員]

沿岸部の工業地帯があるのは強みである。ベッドタウンとしては成熟している。名鉄で名古屋駅まで直通があるので便利なのは間違いないが、駅までのアクセスは十分ではなく、駅も少しさみしい。拠点、核となるようなところもない。今後、駅の再整備でそれらを作っていく。ここへ向けてまちの形を変えていくこともあり得る。スポンジ化が進むとスーパーもなくなる可能性があるので、共倒れになってしまう。バスもなくなる可能性が強い。素敵な店以前に、今後空き家が増えるので、それに向けてどうするか考えてもよいと思う。

[高山委員]

刈谷市は高齢化が進み、スーパーがなくなった。日中人口はトヨタ系の社員が多いが、夜になるといなくなり、高齢者しかいない。2店舗のスーパーがなくなり、ドラッグストアになった。高齢者が薬、介護用品を買うには便利である。

刈谷と比較して知多市の特徴的なのは、団地が企業ごとになっていることである。沿岸部にある企業が団地開発し、その企業の社員が住民になっている。旧市民と新しい市民との温度差で、無関心層があると思う。緑が豊かだと言われるが荒れているだけである。竹林など緑は生えているが、人の手が入っていない緑なので決して美しくない。伊勢湾は魅力的だが、緑に関しては名古屋から20分かけて来る価値はあまりない。日本の自然の美しさは里山に形容されるように人の手が入った自然である。

もともと孟宗竹は中国からの移入種で、かごやざるなどの竹製品がプラスチック製品化されると使われなくなった孟宗竹が荒れてきている。決して美しい緑ではない。住民と馴染みにくい企業が社会貢献（CSR）として耕作放棄地や竹林に手を入れ、市民意識をもつ形でやってくれるとよい。休耕田の田植え体験、竹切りなどは楽しいので、企業単位で取り組んでもらえば無関心な住民も変化すると思う。

【入江副会長のグループ発言骨子】

〔入江副会長〕

知多市民の特性を踏まえ、これからどのように知多市が魅力を持つべきか、知多市だけでなく、広域的にみた中で、どのように進んでいくべきか、ブランド力を付けるべきか、ご意見を頂きたい。

〔長倉委員〕

働く場所がないことが大きい。そのため、名古屋市や東海市へ出て行ってしまう。

計画で挙げられている工業用地の整備や工場誘致に取り組むとともに、住宅環境を整えていくことで、若い人たちが転入してくるのではないかな。

〔市野委員〕

転居する人が何を基準に転居先を選ぶか。安全性はもちろんだが、生涯年収にあわせてどこに住むのかを選択する。経済力を考えての選択なので、そのような人たちが、知多市以外に転居しないような魅力を付ける必要がある。

リニアについて別のところで話を聞いたが、東京、名古屋など駅周辺に経済集積がなければ、周辺市町村にはなかなか恩恵がないとのことであった。

ベッドタウンならば、アメリカのピバリーヒルズではないが、知多市は居住地として良いところ、という発信方法がある。

〔水内委員〕

住み方、暮らし方が大きく変化している。知多市はベッドタウンとして成長してきたところが大きい。それと同時に、変化していることについていけない。

今後の暮らし方がどのように変化するのか、街としての成熟の方向性を真剣に検討していかないと持続的な成長には繋がっていかないのではないかな。

かつての良い暮らしは、ショッピングセンターがあり、いろいろなものが揃うので便利だという暮らし方であったかもしれないが、先ほどの議論と重ねて考えると、良い暮らしは、地域コミュニティが生きている、頼れる人がそばにいる、子どもが安心して遊ぶ環境にあるという地域でのつながりが良い暮らしに繋がる可能性がある。

そのような意味では、知多市は大きなポテンシャルがあるのではないかな。ベッドタウンとして発展してきた経緯から、どのような方向に進むか、読み取ったり予測する力が必要であるし、踏み込んで次の良い暮らしを検討していくことが重要。

[近藤委員]

根本的な問題があり、知多市はどのような姿を目指すのか。ベッドタウンとしての市を目指すのであれば、今の状態が望ましい。

一方、働く場所が少ないというのは、他律的になり、経済危機がきた場合、働く場所がなく、知多市に住めないということになる。このような他律的な都市で良いのか。

また、働く場所、ショッピングする場所が今以上に減らないようにバランスを取りながら検討していくことも考えられる。

個人的には、働く場所、買い物場所がこれ以上減らないようにすることが重要であり、自分たちである程度自立できるよう、働く場所を確保し、買い物場所も確保する、そういう市を目指すというコンセプトがあった方がよい。

[入江副会長]

知多市が今後、どのような街になるかは、まさしくこの総合計画で、10年後、さらにその先どうするか、ここでの議論がベースになる。

これまでの総合計画の議論は、行政としてどのようなまちを作りたいかが先にある。今回の知多市の取組は市民が主役であり、その主役がどのように幸せになるかを考える。発想が逆転的だなと思っている。皆さんのご意見をもって審議会を進めていきたい。

[峯神委員]

高齢者、障がい者にやさしい市であれば、ここで住みたいと感じる。しかし、それだけでは成り立たないのであれば、若い世代が知多市に少しでも住んでくれる環境があれば良いが、それが難しい。

お母さん世代が教育に関して調べると、進んでいる都市はタブレットを使っているのも、そちらに通学させるということが、今後出てくるのではないかと。

そのような準備ができないのであれば、田舎でできるような教育環境を揃える、子どもの教育にとって良い環境を知多市の中で構築していく。

自分自身も子どもも知多市に住んでいて嫌なことがないので住み続けている。シビックプライドというわけではない。外から来ていただくということであれば、何か選ばれるためのものが必要である。

住み続けられることは良いが、例えば仕事や子育てが一段落した際に、このままの環境で良いのかと考えたとき、外から見て魅力的であれば住み続けられるのではないかと。

知多市は魅力ある都市であることをもっと知ってもらうことが求められる。

[入江副会長]

もし転入する方に選んでいただくのであれば、情報発信も必要ではないかと。

[峯神委員]

知多市も情報発信はされているが、それがどれだけ伝わっているのか疑問である。

[榊原委員]

人口を考えると悲観していない。阿久比から見ると、交通の便が良い。

名古屋近郊であれば、ベッドタウンであっても今後、それほど人口は減少しないのではないかと。災害の懸念がある南知多町などと比較すると、知多市は恵まれているのではないかと。

個人的な話しをすると、阿久比で生まれ育って、大学、就職と一度は外に出たが、地域のお祭りがあり、それをやりたいということもあってUターンした。

そのような地域のここにしかないもの、変わらない魅力があるものは知多市でも続けられていると思うので、そのようなものを発信していけば、転出した人も帰ってくるだろうし、住んでいる人たちも良いなと感じるのではないかと。

[富田委員]

教育を考えると、知多市では田植え体験をするなど、すぐ近くに自然があつてふれあうことができる。それが子育てしやすい場所と考えられる。

それを発信すると、求めている人たちに届くのではないかと。

[入江副会長]

これから10年後のまちづくりを考えると、今後、10年で何が起こるのか誰もわからない難しさの中では、いろいろなどころで両論併記していくことが必要になる。

働く場所がないという問題に対して、工場誘致など働く場所を確保するとともに自然もこれからの世代に残していきたいとなると、バランスが重要になり、そのバランスをどのように取るかが大変難しい。

[竹内(栄)委員]

知多市はバランスの良いまちと感じる。30年前のアンケートでは、人口6万人のうち、土着の方が半分であった。30年住んだ方を土着と考えると、非常にバランスの良い街ではないかと。

日本人は引っ越しが得意な人種ではない。若い世代が引っ越しをするタイミングの多くは、一番上の子どもが小学生に入学する時である。入学後に引っ越しをする場合には学区内で探す必要がある。

旭南小学校区には土地がなく、ほぼ全域が市街化調整区域でアパートもない。子どもが入学後、別学区で建設し、越境通学しているケースもみられるようである。

都市計画なども取り込んで考えていく必要があり、それを上手くやったのが東海市。市街化調整区域を市街化編入し、居住誘導してきた。

住んでいる方が暮らしやすいまちが一番であるが、駅の近くにお店がない。仕事帰りに一杯飲んで帰るような場所や買い物をしていく場所がない。

大上段に構えるのではなく、現状、暮らしやすい街であることを前提に、10年後、20年後を考えていくことが求められる。

[入江副会長]

全国的にみると、知多市は恵まれている。人口、財政力指数の動向をみると、愛知県の市町村はそれほど深刻な問題を抱えている訳ではない。バランスが良い。それを前提に、人口が今後緩やかに減少していく、まちが成熟していく中で、どのような方向性が良いかを考える。今あるものを守った中で、転

入していただくために魅力をつくるというのものではないか。

[片山委員]

神奈川県に住んでいる方の話を聞いたが、小学校の夏休みの宿題はプリント2枚だそうである。小学校3年生から塾へ通うため、家庭での学習の負担を軽減するそうである。

それぐらいの勉強をできる子であればよいが、勉強が苦手な子はどうなるのか。タブレットがある教育も、自然にふれあう教育も、知多市であればどちらもできる。ニーズに合わせるができる。

一方、自分が生活する上で仕事は切り離せない。知多市に暮らしながら働き続けられる環境が望まれる。

[市野委員]

10年後に今の仕事がどれだけ残るのかわからない。買い物もネットで買い物する時代で10年後どうなるかわからない。

暮らしに必要なものが10年後も変わらないことが求められるが、それ以上のものが10年後どうなるか。それを議論できると良い。ある一定の基準は守りたい。

[入江副会長]

暮らしやすさの中には、職住近接、安価な地価、安全安心、教育など、いろいろな要素がある。知多市はある程度バランス良く揃えている。

広域的にみると事業所がそれほどなくても、名古屋の通勤圏であり、住みやすさ、暮らしやすさに重点を置くのも一つの方向性。

[長倉委員]

前回の審議会で大きなショッピングセンターは常滑に任せれば良く、若い人が来る駅は太田川に任せれば良いという意見があり、なるほどと思った。

工場立地という話のある一方、騒音の問題がある。大きなショッピングセンターもニーズはあるが、渋滞の問題や治安の問題もある。

知多市は住みやすいという意見が圧倒的に多い。それを活かしつつ、公共交通機関を増やししながら、その一方で自然を守るというバランスを取りながら進んでいく方向性ではないか。

[入江副会長]

住みやすさは一つの資源であるが、市民は日常生活の中では当然と感じてあまり言語化できてなく、でてこない。

要素を細分化して安全安心、人とのつながりなど細分化して、それらを大切にしていけるのが10年後に向けた一つの方向性である。

[水内委員]

一方で資料を拝見すると、このまま手を打たずに安心できる状態ではない。

大企業を誘致すると生活環境が悪くなるという反比例ではなく、知多市にはこういうイメージの企業が求められる、企業が持っているブランドを上手く知多市に取り込んでいけるような誘致ができるが良い。例えばサントリーのウィスキー知多はすごく良いイメージがある。

住民が企業を選ぶ、企業と組んで上手く暮らしを向上させる取組が一つの考え方としてあるのではないか。

[近藤委員]

統計をみると、アクセスがあまり変わらない東海市、大府市に比べ、新築住宅着工件数が少ない。このままではベッドタウンとして続くか不安である。

調整区域が多いという問題に対しては都市計画を見直し、新しいまちをつくるという取組が求められる。

現状では、市外で稼いで市外で払っている状況。望ましいのは市外で稼いで市内で払う。企業誘致もあるが、起業したい人を応援していくのも一つの方策ではないか。

[竹内(栄)委員]

これまで近所のお店で購入したものがネットでの購入に代わっており、今後、益々ネットでの購入が増えていく、それを考えていかなければならない。

外国人が増えており、知多市も取り組んでいると思うが、さらにスピード感を持って受け止めてほしい。

ネットの購入に対抗するため、どのように付加価値を付けていくか。銀座にはアンテナショップが沢山出店し、PRしている。リニア、セントレアなど、近隣の資源を活かしながら需要を掘り起こしていくことが求められる。

[入江副会長]

いろいろなご意見を皆さんで共有するという事で本日の議論は良いと思う。

いろいろな方向性がある中で、住みやすさを維持していくために、まちとしての賑わいをどうするかということは、どちらかではなく、どちらも必要になる。

このまま座して10年待つのではなく、都市計画を見直す、企業を取り込んでPRしていく。バランスとしては、住みやすさ、まちの持続性のどちらも備えていることが重要である。

【全体共有】

[入江副会長]

大変貴重なご意見をたくさんいただいて、とてもひとつにはまとめきれないものでもないし、今日はまとめなくても良いのかなと思っていたのですが、まず初めのシビックプライドに関して、シビックプライドという言葉自体にピンとこないという意見を何人の方から出していただいて、ギャップがあるですとか、その中身が何かということにも議論をいただきました。恐らく、短期的な、明示的な街としての魅力、大きな店があるとか観光地があるとかということである、なかなかありませんという意見しか出てきませんが、長期的なプライド、人の住みやすさとはかけ離れているのではないかと、というご意見が

ありました。

住んでいらっしゃる方々は、住みやすさということは潜在的に思っており、日常ですので、取り立てて魅力だと自覚していないのではないかと。よくよく考えると、自然が豊かだったり、人のつながりが大変豊かだったり、自慢できる場所もそれぞれあるというところで、アンケートの引き出し方があまり良くないのでは、という意見もありました。

シビックプライドという言葉があまりしっくり来ていないというところなのか、プライドというものが、そんなに短期間で醸成できるものでもないもので、長期間の中で出来ていくものでないか、あるいは何かモノではなくて、その人たちの活動やプライド、エネルギーなど、そういうものがプライドに繋がるのではないかと、という意見がありました。住みやすさ、地域性の良さというところは、皆さん共通して認識していて、それがプライドに直結していない。しかし住めば都ということでした。

後半は、知多市のあるべきポジションと方向性ということで、ご意見を頂戴したのですが、これも本当に多様なご意見がありまして、とてもまとめることができないので、いくつか紹介したいのですが、住みやすさということは皆さん思っているから、住みやすさの中も要素に分ければ、安全性が高いですか、自然が豊かだったりとか、人とのつながりが大変あるという要素もあり、それはこれからも持ち続けていきたいのだけれども、とはいえ、働き口をどうするか。これから10年先のまちの持続性を考えたときに、街の賑わいをどうするかということを見ると、今の住みやすいといういい状態は残しつつも、まちとしての持続性を考えていくべきなのではないか、という意見がありました。そして、その住みやすさの中でも、具体的にご意見いただいたのは、積極的に打って出るといって、都市計画を見直す、大企業でなくても人が働けるような企業を誘致する、今ある買物の場所がこれ以上減らないようにする、というようなご意見も頂きました。

住みつけている方がいらっしゃる中で、選んで知多市に入ってくる方がいらっしゃるからという、今あるものを大事にすることプラス、魅力を付けていく。例えば、子どもの教育がこの地域は素晴らしいというような、魅力を付けていくことも重要ではないか。

あるいは、お祭りがあるというのは、地域の魅力としてすごく大きい要素になっているという発言もあって、そういった、元々のものも持ち続けていくということも重要だという意見もありました。

[吉村会長]

今日あとわずか10分しかありませんので、手短にしたいと思います。色々な意見がありましたが、後半の松本委員からの投げかけが大事だと思っています。今日の資料の中で、現在の人口の話がありましたが、10年、20年経つと、人口の数だけでなく、その構造が変わってくるということをちゃんと直視しながら、どうしていくのかということをやはり考えなければならぬのではないのでしょうか。抽象的な、概念的なところでこういうビジョンというのは、もちろんあるけれども、他方で人口構成がどう変わるかということから、考えるべきこともあるのではないのでしょうか。

おそらく、例えば典型的な例として、スポンジ化は国でも議論がされていますけれども、人口が減ってくると当然のことながら、空き家も増えてきます。久野委員の話にもありましたが、両隣今までは挨拶しましょうという関係だったのが、両隣空き家が当たり前。それがどんどん広がってきたときにどうしていくのか。10年、20年スパンで考えると、これは現実問題だと思うので、そういうことを踏まえながらどういうふう考えていくかが大事なのではないか、という投げかけがありました。

そのうえで、いくつか議論があったのですが、知多市の強みとして、自然が豊か、緑がある、海がある、という強みをどう考えるか。リニアインパクトの話の中で、松本委員から、名駅へのアクセスが、朝倉からだだと20分というのは、結構強みになるという発言がありました。ただ、その後をどう考えるのか、というのがすごく大事だということで、自然豊か、緑・海を活かしながら、と同時に、前半の議論の中で、そのうえで素敵なカフェがあった方がいい、という議論があり、これは極端な議論をすれば、両立しなくなるかもしれない。どちらを取るのかということも、未来として真摯に考えていってもいいのではないかと、という話がありました。

ただ高山委員からは、自然が豊かと言っているけれども、実は知多市の緑は荒れているのではないかと、という問いかけもあり、やはり言葉上の話と、現実、実際はどうなっているのかということをしちんと見ながら議論していかなければならないと思います。豊かな緑といっても実は必ずしも豊かではない、逆に言えば、荒れた緑だとしたら、どうやってちゃんと豊かな緑に変えていくか、あるいは維持していくかも含めて、考えていく必要があるなという意味では、未来的に考える事とそれをちゃんと担保することを一緒に考える必要があると思います。

市民活動の話というのは、多分今のアンケートだとなかなか見えない所としてあるかもしれないですけども、ただ「市民活動・NPO活動が盛ん」ということも、今盛んということはこれまで20年の歴史の中で盛んになってきたことであるので、でもこれがこの先、10年後、20年後どうなっていくのかということは、また全然違う話になるかもしれないので、注意しなくてはならないし、河村委員からの投げかけは、奉仕的に、利他的にボランティアを考えるよりはむしろ、自分がやりたいことを利己的にやっても、いざ地域や街をきれいにしていっていい街にしていく、なっていくのは楽しいよね、というところからアプローチしていくということもあっても良いのではないかと。ボランティアの考え方も変えてもいいかもしれない、という話もありました。

その中でシビックプライドに関して言えば、こちらはあまり皆さんそこまで深く議論していなかったところもありますが、久野委員から投げかけがあり、自分の願う未来を自分たちで作っていくということが、実は愛着を持って誇りを持って地域を作っていくことなのではないか。市民だから知多市で頑張るといふよりは、誰かのためにとか、こういうことが好きということをやっている、実はそういう小さなことを積み重ねていくことが、結果的に知多市全体として蓄積され、豊かなものになっていくという考え方から、やっていくことも大事だし、逆にそういう風土を作っていくということが大事なのではないか、という投げかけがありました。

松本委員からお話がありましたが、長久手市は今人口が増えてきて財政的にも豊かだが、吉田市長はむしろ、今だからこそ市民協働をもっとやらなくてはならない、ということをしちんと力説しています。逆に、知多市はもっと前からそういうことをやってきた歴史的なものを、より次の未来に向けてバージョンアップするなり、変えていくということが、もしかしたらこれから未来を変えていくうえで大事なのではないのでしょうか。

また、人口が減ったとしても、見方を変えれば今まで出来ていなかったことが出来るようになるれば、活動量自体は維持、もしくは増やすことができるのではないかと。高齢者だから、障がい者だから何もできないという話ではなく、それぞれ出来る事を上手く出来るようにする環境、状況をつくっていきながら、その人たちの力もうまく活かしながらやっていくことで、人口が減ることはどうしようもないので、その前提の上で今まで出来ていなかったことが出来るようにするということがすごく大事なのでは、という

話もありました。

最後に、生田委員からは、アンケート調査では健康づくりに関心がある人はいっぱいいるが、実際に健康づくりの活動をする人はあまりいないのではないかと、市民活動に関心があるが実際にやっている人はあまりいないのではないかと、という話がありました。恐らくそのヒントは、利己的とか楽しいとかを含めて考えていくことがすごく大事なのではないかと、と思いました。

[吉村会長]

入江委員もおっしゃっていたように、今日はまとめるというよりも、いろんな観点からいろんなアイデアを出していただくことが大事な事かと思っておりますので、敢えてまとめませんが、今日は皆さんある程度しゃべれましたでしょうか。いろいろ話すと、いろんなアイデアもあるなと思いましたが、何人かの委員の人からは、ある人の発言から触発されて、こういうことを考えたということも出ていました。

この審議会でもある段階まではそういう少し触発されるような議論を進めながら、未来のことに関しても、恐らく過去のいろんな蓄積とか今まで他の自治体でやってきたことだけではやはり分からないこと、あるいは基本的に分からないことに対するチャレンジだと思っておりますので、是非皆さんとのやり取りを大事にしながら、この審議会は進めていきたいと思っております。

次回以降も可能な限りこういう形態でやっていきたいと思っておりますし、少なくともテーブルのメンバーを変えながら、あるいは他の場面でも皆さんと意見交換しながら進めていければと思っております。よろしくお願いいたします。

3 その他

[事務局]

活発な意見交換をありがとうございました。それぞれのチームで意見交換された内容を、事務局の方でまとめまして、是非とも共有させて頂きたいと思っております。次回の審議会までにお送りさせていただきます。

次回の審議会は、11月13日(火)午後3時からを予定しております。会場につきましては、後日お知らせさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

また、市民ワークショップ「第3回未来にツナグ会議」を9月1日(土)、市民体育館で午後1時30分から開催する予定でございます。3回連続のプログラムの、今回最終回になります。生田委員、富田委員もご参加の予定です。最終回ということで、高校生も含め、約40名の方がご参加いただけるという会でございます。皆さんお忙しいかとは思いますが、ご都合のつく方には、是非足を運んでいただければと思っております。よろしくお願いいたします。

[吉村会長]

以上で、本日の会議の全議事を終了いたしました。これにて第2回知多市総合計画審議会を閉会します。皆様、今日は本当にどうもありがとうございました。これからもどうぞよろしくお願いいたします。